

高知県感染症発生動向調査（週報）

2017年 第43週（10月23日～10月29日）

★お知らせ

○RS ウイルス感染症に気を付けて！

定点医療機関当たりの報告数は第42週の2.80から第43週では3.33と横ばいですが、幡多、中央西で急増しています。

病原体検出情報では第43週に幡多から搬入された検体（臨床診断名はインフルエンザ様疾患）でRespiratory syncytial virus Bが1例検出されています。

また、定点医療機関からのホット情報でもRSウイルス感染症の報告があがっているので注意して下さい。

この病気は軽い風邪様の症状で発症し、通常1～2週間で軽快しますが、授乳期早期（生後数週間から数ヶ月）にRSウイルスに初感染した場合は、細気管支炎、肺炎といった重篤な症状を引き起こすことがあります。特に、低出生体重児や心臓や肺に基礎疾患がある場合、神経や筋肉の疾患がある場合、免疫不全が存在する場合には重症化のリスクは高まります。一方で、年長児や成人は、感染しても症状が軽いことが多く、気が付かずに感染源となる可能性があるため注意が必要です。また、高齢者においても急性のしばしば重症の下気道炎をおこす原因となるため、特に長期療養施設内での集団発生が問題となる場合があります。

予防接種ワクチンはなく、患者の咳、くしゃみなどによる飛沫感染、感染している人との濃厚接触、ウイルスが付着した物品を触ることによる接触感染により感染するので、風邪と同様にマスクの着用（咳エチケット）と手洗いによる予防が有効です。乳幼児への感染を防ぐため、咳などの症状がある人になるべく接触させないようにし、看護する人も手洗いを十分に行ってください。また、早産児や慢性呼吸器疾患を有するハイリスクな乳幼児には重症化予防のため、パリビズマブ（抗RSウイルスヒト化モノクローナル抗体）の投与があります。（本剤の添付文書では、投与に際しては学会等から提唱されているガイドライン等を参考とし、個々の症例ごとに本剤の適用を考慮することとされており、保険適用となっています。）

●厚生労働省 「RSウイルス感染症 Q&A」

http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekkaku-kansenshou19/rs_qa.html

●国立感染症研究所 「注目すべき感染症 RSウイルス感染症」

<https://www.niid.go.jp/niid/ja/id/541-disease-based/alphabet/respiratory-syncytial/dsc/idwr-topic/7509-idwrc-1734.html>

○感染性胃腸炎に気を付けて！

定点医療機関当たりの報告数は第42週の2.60から第43週では3.47と増加しています。県全域から報告があり、安芸、須崎で急減、中央東で減少していますが、幡多、中央西で急増しています。

定点医療機関からのホット情報ではノロウイルスが5例、細菌の病原性大腸菌やカンピロバクター属菌、サルモネラ属菌を原因とする胃腸炎8例の報告もあります。

また、学校等欠席者・感染症情報システム※でも13例の報告があることから引き続き注意が必要です。

ノロウイルスによる感染性胃腸炎は、主に冬場に流行しますが1年を通して発生しています。嘔吐、下痢が主症状ですが、その他、発熱、腹痛などの症状があります。特に、乳幼児や高齢者、体力の低下している方は、下痢、嘔吐などで脱水症状を起こすことがありますので、早めに医療機関を受診してください。通常は1週間以内に回復しますが、症状消失後も1週間程度、長いときには1ヶ月程度ウイルスの排出が続くことがあります。保育園や幼稚園、学校や社会福祉施設など集団生活の場で大規模な流行となることもあり注意が必要です。

予防対策のため、帰宅時や調理前・食事前、トイレの後に石けんでよく手を洗いましょう。また、感染した人の便やおう吐物には、直接触れないようにし、次亜塩素酸ナトリウムまたは、家庭用の次亜塩素酸ナトリウムを含む塩素系漂白剤の使用を確認したうえで使用し処理しましょう。（使い捨ての手袋やキッチンペーパーなどを使って処理しましょう。）調理をする場合は、十分加熱（85℃で1分以上）しましょう。

●厚生労働省 「ノロウイルスに関する Q&A」

http://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/kenkou_iryuu/shokuhin/syokuchu/kanren/yobou/040204-1.html

●衛生研究所 「高知県ノロウイルス対策マニュアル」

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/norovirus.html>

○マイコプラズマ肺炎に気を付けて！

定点医療機関当たりの報告数は第42週の0.13から第43週では0.38と急増しています。高知市では横ばいですが、幡多で急増しています。

また、定点医療機関からのホット情報でもマイコプラズマ感染症の報告があがっているので注意して下さい。

マイコプラズマ肺炎は、肺炎マイコプラズマによって起こる呼吸器感染症で、幼児期から学童期によく見られます。2～3週間と比較的長い潜伏期間を経てまず発熱、全身倦怠感、頭痛などの初期症状が現れます。その後、頑固な咳嗽がみられ、この咳は解熱後も3～4週間続きます。重症化すると中耳炎、胸膜炎、心筋炎、髄膜炎などの合併症を生じることがあります。

感染経路は患者の咳のしぶきを吸いこんだり、患者と身近で接触したりすることにより感染すると言われています。保育園や幼稚園、学校、あるいは家庭内等での伝播がみられます。

予防対策としては、手洗いと咳エチケットです。

○手足口病に気を付けて！

定点医療機関からの報告数は第42週の1.00から第43週0.97と横ばいです。幡多で減少していますが、中央西で急増しています。

病原体検出情報では第42週に幡多から搬入された検体で Enterovirus 71 が1例検出されています。

※ 学校等欠席者・感染症情報システム：県内小中高等学校における疾病別患者数情報システム

☆野外活動の際にはマダニに注意！

日本紅斑熱や SFTS（重症熱性血小板減少症候群）は比較的大型（吸血前で3～4mm）のマダニが媒介する感染症です。

「マダニに咬まれないこと」がとても重要です。

マダニは野山、草地、畑、河川敷などに広く生息しています。屋外でキャンプ、ハイキングなどのレジャーや農作業をする場合には次のことに注意しましょう。（全てのマダニが病原体を持っているわけではありません）

- 長袖・長ズボン・長靴などで肌の露出を少なくしましょう。
- マダニに対する虫除け剤（有効成分：ディートあるいはイカリジン）を活用しましょう。
- 地面に直接座ったりしないよう、敷物を使用しましょう。
- 活動後は体や衣服をはたき、帰宅後にはすぐに入浴し、マダニに咬まれていないか確認しましょう。

発熱等の症状が出たとき

野山に入ってからしばらくして（数日～数週間程度）発熱等の症状が出た場合、医療機関を受診して下さい。受診の際、発症前に野山に立ち入ったこと（マダニに咬まれたこと）を申し出て下さい。

また、このたび発熱・衰弱等に加え血小板減少等の所見が見られた飼育ネコ及び飼育イヌの血液・ふん便から SFTS ウイルスが検出された事例並びに、体調不良のネコからの咬傷歴があるヒトが SFTS を発症し死亡した事例が確認されました。これらの事例は稀な事例ではありますが、イヌやネコの体液等からヒトが感染することも否定できないので、体調不良の動物に接触した後、発熱等の症状が出た時には医療機関を受診して下さい。その際には、動物との接触歴についても申し出て下さい。

●重症熱性血小板減少症候群（SFTS）に関する Q&A（厚生労働省）

http://www.mhlw.go.jp/bunya/kenkou/kekaku-kansenshou19/sfts_qa.html

●高知県衛生研究所 マダニが媒介する感染症及び注意喚起パンフレット

<http://www.pref.kochi.lg.jp/soshiki/130120/2015111600016.html>

国内で入手できる忌避剤の種類と特徴

忌避剤	有効成分含有率	分類	有効持続時間	注意事項	特徴
ディート	5～10%	防除用 医薬部外品	1～2時間	6ヶ月未満児 には 使用禁止	・独特の匂い ・べたつき感 ・プラスチック・化学繊維・皮革を 腐食することもある
	12%	防除用 医薬品	約3時間		
	高濃度製 剤 30%	防除用 医薬品	約6時間	12歳未満は 使用禁止	
イカリジン	5%	防除用 医薬部外品	～6時間		
	高濃度製 剤 15%	防除用 医薬品	6～8時間		

※国立感染症研究所「マダニ対策、今できること」より抜粋

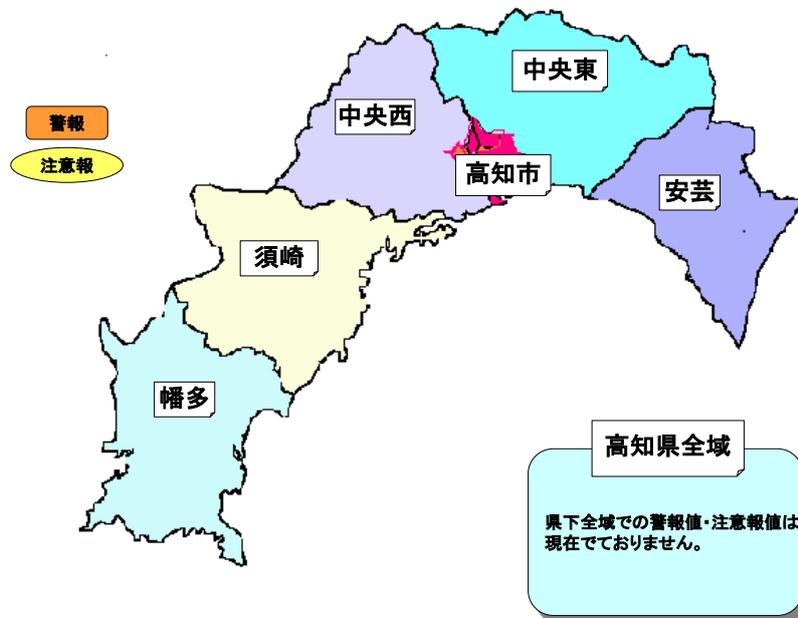
※市販の虫除け剤(忌避剤)は、用法・用量・使用方法等をよく読んで使用してください。

★県内での感染症発生状況

定点把握感染症（上位疾患） ↑：急増 ↗：増加 →：横ばい ↘：減少 ↓：急減

疾病名	推移	定点当たり報告数	県内の傾向
感染性胃腸炎	↗	3.47	安芸、須崎で急減、中央東で減少していますが、幡多、中央西で急増、県全域で増加しています。
RSウイルス感染症	→	3.33	安芸で急減していますが、幡多、中央西で急増しています。
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	→	1.40	中央西で急減していますが、中央東で急増しています。
手足口病	→	0.97	幡多で減少していますが、中央西で急増しています。
突発性発疹	↑	0.57	幡多、安芸で急減していますが、県全域、中央西、高知市で急増、中央東で増加しています。

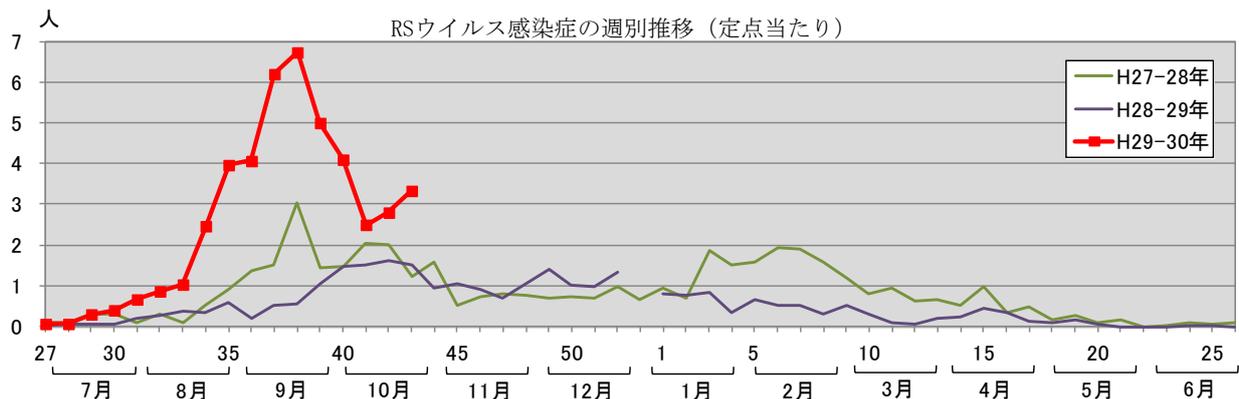
★地域別感染症発生状況



★気を付けて！

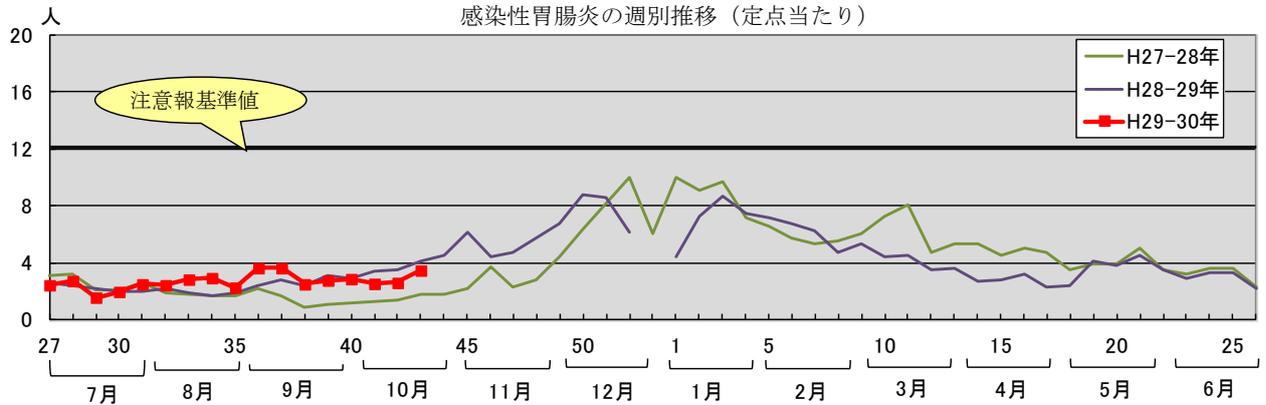
○RSウイルス感染症 第43週：3.33（注意報値：－ 警報値：－）

定点医療機関からの報告数は定点あたり3.33（前週：2.80）と横ばいです。安芸0.00（前週：1.00）で急減していますが、幡多4.40（前週：1.40）中央西2.67（前週：0.33）で急増しています。



○感染性胃腸炎 第43週：3.47（注意報値：12.00 警報値：20.00）

定点医療機関からの報告数は定点当たり 3.47（前週：2.60）と増加しています。安芸 1.00（前週：5.00）須崎 0.50（前週：2.00）で急減、中央東 1.71（前週：2.29）で減少していますが、幡多 8.40（前週：1.60）中央西 2.00（前週：0.00）で急増しています。



※グラフの途切れについて
 H27-H28年は第53週までであるため、グラフ横軸に第53週を挿入しています。
 そのため、H26-H27年とH28-H29のグラフ第52週～第1週間に途切れが生じています。

★全数把握感染症

類型	疾病名	件数	累計	内容	保健所
2類	結核	1	99	20歳代 女	安芸
		1		70歳代 男	高知市
		1		70歳代 女	
		1		80歳代 女	
		1		40歳代 女	幡多
4類	レジオネラ症	1	4	50歳代 男	高知市
5類	梅毒	1	19	20歳代 男	中央東
		1		40歳代 女	高知市

★病原体検出情報

受付週	臨床診断名	臨床症状	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
43	インフルエンザ様疾患	39℃, 気管支炎,	1	男	幡多	Respiratory syncytial virus B

前週以前に搬入

受付週	臨床診断名	臨床症状	年齢	性別	保健所	ウイルス、細菌の検出状況
40	急性気管支炎	38℃, 咳嗽, 上気道炎, 下気道炎, 気管支炎,	1	女	中央東	Coxsackievirus A2
42	手足口病	39℃,	0ヶ月	男	幡多	Enterovirus 71
42	感染性胃腸炎	下痢, 嘔吐, 嘔気,	4ヶ月	女	中央東	Parainfluenza virus 1

★定点医療機関からのホット情報

保健所	医療機関	情報
中央東	早明浦病院小児科	カンピロバクター腸炎 1 例 (6 歳男) RS ウイルス感染性肺炎 2 例 (5 ヶ月女、8 ヶ月男：他医療機関へ入院) RS ウイルス感染症 3 例 (1 歳女 2 人、2 歳男) (その他多数発症あるも検査行っていない)
	高知大学医学部付属病院小児科	RSV 肺炎 1 例 (7 ヶ月男) RS 気管支炎 1 例 (1 歳男)
高知市	高知医療センター小児科	RS ウイルス感染症 10 例 (1 ヶ月男女、5 ヶ月女、8 ヶ月男、1 歳男 4 人、2 歳男、4 歳女)
	福井小児科・内科・循環器科	RS ウイルス感染症 2 例 (1 歳男 2 人) 溶連菌感染症 14 例 (増加傾向) 手足口病 3 例 ヘルパンギーナ 2 例
	けら小児科・アレルギー科	病原性大腸菌 O-1+サルモネラ O-9 腸炎 1 例 (75 歳) 病原性大腸菌 O-1 腸炎 1 例 (8 歳) ノロウイルス腸炎 1 例 (2 歳)
	細木病院小児科	ノロウイルス 4 例 (1 歳女 2 人、2 歳男 2 人) サルモネラ 1 例 (7 歳女) キャンピロ 1 例 (16 歳男)
須崎	もりはた小児科	帯状疱疹 1 例 (12 歳男) マイコプラズマ肺炎 2 例 (10 歳女) 以下 42w 百日咳 1 例 (9 歳女 LAMP 法陽性) マイコプラズマ肺炎 7 例 カンピロバクター腸炎 2 例
幡多	さたけ小児科	マイコプラズマ 1 例 (6 歳女) 感染性胃腸炎 28 例と流行

★全国情報

第 41 号 (10 月 9 日～10 月 15 日)

1 類感染症：報告なし

2 類感染症：結核 312 例

3 類感染症：細菌性赤痢 1 例、腸管出血性大腸菌感染症 66 例、腸チフス 1 例

4 類感染症：E 型肝炎 5 例、A 型肝炎 2 例、回帰熱 1 例、デング熱 3 例、日本紅斑熱 15 例、マラリア 1 例、レジオネラ症 41 例、レプトスピラ症 3 例、

5 類感染症：アメーバ赤痢 8 例、ウイルス性肝炎 2 例、カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 25 例
急性脳炎 7 例、クロイツフェルト・ヤコブ病 2 例、劇症型溶血性レンサ球菌感染症 3 例、
後天性免疫不全症候群 21 例、侵襲性インフルエンザ菌感染症 3 例、侵襲性髄膜炎菌感染症 3 例
侵襲性肺炎球菌感染症 24 例、水痘 (入院例に限る) 8 例、先天性風しん症候群 1 例
梅毒 62 例、播種性クリプトコックス症 3 例、風しん 3 例、麻しん 2 例
薬剤耐性アシネトバクター感染症 1 例

削除予定：バンコマイシン耐性腸球菌感染症 1 例

報告遅れ：E 型肝炎 1 例、日本紅斑熱 5 例、レジオネラ症 13 例、レプトスピラ症 3 例

カルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症 18 例、急性脳炎 7 例

劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1 例、水痘 (入院例に限る) 6 例、梅毒 60 例

播種性クリプトコックス症 2 例、バンコマイシン耐性腸球菌感染症 3 例、風しん 2 例、

麻しん 1 例

.....

高知県感染症情報(59定点医療機関)

第43週 平成29年10月23日(月)～平成29年10月29日(日)

高知県衛生研究所

定点名	疾病名	保健所	第43週							計	前週	全国(42週)	高知県(43週未累計) H29/1/2～H29/10/29	全国(42週未累計) H29/1/2～H29/10/22
			安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多						
インフルエンザ	インフルエンザ								(0.00)	(0.00)	1,201 (0.24)	14,652 (305.25)	1,373,629 (277.95)	
小児科	咽頭結核膜炎		1						1 (0.03)	4 (0.13)	1,390 (0.44)	363 (12.10)	70,525 (22.34)	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		3	32		4	3	42 (1.40)	38 (1.27)	5,678 (1.80)	2,166 (72.20)	286,421 (90.73)		
	感染性胃腸炎	2	12	41	6	1	42	104 (3.47)	78 (2.60)	10,614 (3.36)	4,830 (161.00)	678,861 (215.03)		
	水痘			4	1	5	1	11 (0.37)	16 (0.53)	1,044 (0.33)	496 (16.53)	44,197 (14.00)		
	手足口病		4	18	2		5	29 (0.97)	30 (1.00)	5,630 (1.78)	3,180 (106.00)	322,901 (102.28)		
	伝染性紅斑							(0.00)	(0.00)	149 (0.05)	109 (3.63)	10,076 (3.19)		
	突発性発疹		4	8	4		1	17 (0.57)	8 (0.27)	1,289 (0.41)	460 (15.33)	60,347 (19.12)		
	百日咳							(0.00)	2 (0.07)	38 (0.01)	24 (0.80)	1,287 (0.41)		
	ヘルパンギーナ	2	3	8				13 (0.43)	17 (0.57)	1,298 (0.41)	546 (18.20)	80,261 (25.42)		
	流行性耳下腺炎			1				1 (0.03)	1 (0.03)	1,079 (0.34)	185 (6.17)	68,587 (21.73)		
RSウイルス感染症		20	43	8	7	22	100 (3.33)	84 (2.80)	3,988 (1.26)	1,561 (52.03)	113,285 (35.88)			
眼科	急性出血性結膜炎							(0.00)	(0.00)	6 (0.01)	(0.00)	351 (0.51)		
	流行性角結膜炎			1				1 (0.33)	(0.00)	570 (0.82)	14 (4.67)	21,171 (30.51)		
基幹	細菌性髄膜炎							()	(0.00)	14 (0.03)	3 (0.38)	427 (0.90)		
	無菌性髄膜炎							()	(0.00)	17 (0.04)	7 (0.88)	803 (1.68)		
	マイコプラズマ肺炎			1			2	3 (0.38)	1 (0.13)	177 (0.37)	79 (9.88)	6,432 (13.48)		
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)			1				1 (0.13)	(0.00)	6 (0.01)	11 (1.38)	214 (0.45)		
	感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)							()	(0.00)	4 (0.01)	87 (10.88)	4,873 (10.22)		
計	(小児科定点当たり人数)	4 (2.00)	47 (6.71)	158 (14.10)	21 (7.00)	17 (8.50)	76 (14.80)	323 (10.60)		34,192	28,773 (769.24)	3,144,648		
前週	(小児科定点当たり人数)	16 (8.00)	48 (6.86)	156 (14.10)	11 (3.66)	18 (9.00)	30 (6.00)		279 (9.27)					

注 ()は定点当たり人数。

高知県感染症情報(59定点医療機関)定点当たり人数

定点名	疾病名	保健所	第43週							計	前週	全国(42週)	高知県(43週未累計) H29/1/2～H29/10/29	全国(42週未累計) H29/1/2～H29/10/22
			安芸	中央東	高知市	中央西	須崎	幡多						
インフルエンザ	インフルエンザ								0.00	0.00	0.24	305.25	277.95	
小児科	咽頭結核膜炎		0.14						0.03	0.13	0.44	12.10	22.34	
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		0.43	2.91		2.00	0.60	1.40	1.27	1.80	72.20	90.73		
	感染性胃腸炎	1.00	1.71	3.73	2.00	0.50	8.40	3.47	2.60	3.36	161.00	215.03		
	水痘			0.36	0.33	2.50	0.20	0.37	0.53	0.33	16.53	14.00		
	手足口病		0.57	1.64	0.67		1.00	0.97	1.00	1.78	106.00	102.28		
	伝染性紅斑							0.00	0.00	0.05	3.63	3.19		
	突発性発疹		0.57	0.73	1.33		0.20	0.57	0.27	0.41	15.33	19.12		
	百日咳							0.00	0.07	0.01	0.80	0.41		
	ヘルパンギーナ	1.00	0.43	0.73				0.43	0.57	0.41	18.20	25.42		
	流行性耳下腺炎			0.09				0.03	0.03	0.34	6.17	21.73		
RSウイルス感染症		2.86	3.91	2.67	3.50	4.40	3.33	2.80	1.26	52.03	35.88			
眼科	急性出血性結膜炎							0.00	0.00	0.01	0.00	0.51		
	流行性角結膜炎			1.00				0.33	0.00	0.82	4.67	30.51		
基幹	細菌性髄膜炎							0.00	0.00	0.03	0.38	0.90		
	無菌性髄膜炎							0.00	0.00	0.04	0.88	1.68		
	マイコプラズマ肺炎			0.20			2.00	0.38	0.13	0.37	9.88	13.48		
	クラミジア肺炎(オウム病は除く)			0.20				0.13	0.00	0.01	1.38	0.45		
	感染性胃腸炎(ロタウイルスに限る)							0.00	0.00	0.01	10.88	10.22		
計	(小児科定点当たり人数)	2.00	6.71	14.10	7.00	8.50	14.80	10.60			769.24			
前週	(小児科定点当たり人数)	8.00	6.86	14.10	3.66	9.00	6.00		9.27					

発行：高知県感染症情報センター（高知県衛生研究所）
〒780-0850 高知市丸ノ内2-4-1（保健衛生総合庁舎1階）
TEL：088-821-4961 FAX：088-825-2869

この情報に記載のデータは2017年10月30日現在の情報により作成しています。調査などの結果に応じて若干の変更が生じることがありますが、その場合週報上にて訂正させていただきます。